

平成29年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 准教授

氏名： 木村 敦

<p>研究課題</p>	<p>大学講義中の「私語」に関する心理学的研究</p>
<p>報告の概要</p>	<p>研究目的及び研究概要</p> <p>大学の講義において、学生の私語は他履修者や授業進行の妨害となる。一方で、授業内容に関連する質問や意見交換を友人と行う行為である「授業関連私語」まで教員が厳しく取り締まると、学修意欲や学生間の自発的な学び合いを抑制することにもつながる。とはいえ、授業関連私語であっても迷惑に感じる学生もいることから、授業関連私語をある程度許容する場合にも学生各自の裁量に任せるのではなく、授業運営を統括する教員の立場から適切に許容タイミングをコントロールする必要がある。そこで、本研究は講義中に授業関連私語の許容タイミングをリアルタイムで可視化するシステムの設計、およびその効果検証を行うことを目的とした。研究を遂行するにあたっては、まずシステムの要求仕様を整理し、各授業スライド内にその場面での私語許容度をアイコン表示するシステムのプロトタイプを作成した。そしてプロトタイプシステムを導入した授業と、導入前の関連授業における騒音量や受講者評価から、本システムの効果を定量的に検証した。本研究はこれまで私語研究の中でもほとんど着目されることのなかった授業関連私語に焦点を当て、学生の積極的授業参加とクラス全体の統制を両立する現実的な介入方法を提案したものであり、授業改善に寄与する有用な研究であるといえる。</p> <p>研究成果</p> <p>授業関連私語の許容タイミング可視化システムのプロトタイプをPowerPointの諸機能を用いて作成して講義に導入し、授業時の騒音量や受講者の意識調査等の指標から効果検証を行った。その結果、システム導入後の方が静粛場面での騒音量が小さい傾向があり、また受講者の静粛度評価も高いことが示された。また、受講者の意識調査結果等から、本システム導入により講義に対する満足度が向上したことを示唆した。これらの結果を踏まえ、本提案システムの効果と今後の改良計画について考察した。</p> <p>本研究成果の一部は、2018年3月に情報コミュニケーション学会第15回全国大会において発表し、当学会大会で最も優れた発表1件に贈られる「優秀発表賞」を受賞した。また、受講者の認知特性と関連を含めた詳細な分析結果を2月～3月に進め、その成果を2018年度中に教育工学や教育へのICT活用に関する国内学会等で発表するなど、引き続き研究成果の公表に努めたい。</p>
<p>研究業績</p>	<p>・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数</p> <p>なし</p>
<p>研究業績</p>	<p>・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所</p> <p>①学会発表：木村敦「スピーク・ロウ：大学講義における授業関連私語の許容タイミングの可視化」、情報コミュニケーション学会第15回全国大会、2018年3月10日、大手前大学、発表抄録集pp.94-97。■情報コミュニケーション学会第15回全国大会「優秀発表賞」受賞■</p>
<p>研究業績</p>	<p>・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等</p> <p>なし</p>